

# 福島経済マンスリー

1月の県内経済は、生産活動が回復傾向にあり、持ち直しの動きが続いている。

## 1. 平成26年1月の県内経済

項目	コメント	景況判断	
		変化方向	水準
県内経済の景況	県内経済は、生産活動が回復傾向にあり、公共投資などの投資動向や消費動向が堅調に推移するなど、持ち直しの動きが続いている。		
消費動向	大型小売店販売額は、百貨店、スーパーとも前年を上回ったため、9ヵ月連続で前年比で増加した。また、新車登録台数は、5ヵ月連続で前年を上回った。		
公共投資	公共工事前払保証取扱は、件数が2ヵ月連続、請負金額と保証金額は2ヵ月ぶりでそれぞれ前年を上回った。		
設備投資	民間・非居住用建築着工は、棟数が2ヵ月ぶり、床面積と工事費予定額が2ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。		
住宅投資	新設住宅着工戸数は、合計で3ヵ月連続して前年を上回った。内訳をみると、持家が8ヵ月連続、貸家が2ヵ月連続でそれぞれ前年を上回ったが、分譲は3ヵ月ぶりで前年を下回った。		
生産活動	鉱工業生産指数は、前月比、前年比とも4ヵ月連続で増加した。業種別の前月比をみると、14業種で増加し、5業種で減少した。		
雇用動向	有効求人倍率は、季節調整値が前月を上回り、原数値が前年を上回った。また、雇用保険受給者実人員は4ヵ月連続で前年を下回った。		

注：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（：改善、：不変、：悪化）、「水準」は現在における景況の水準をそれぞれ示す。「変化方向」は当月と前月における3ヵ月加重移動平均の前年同期比の比較、「水準」は当月の3ヵ月加重移動平均値と過去5年間の平均値の比較により、それぞれ判断している。ただし、「変化方向」が改善または悪化の場合でも、「水準」が変わらない場合もある。なお、公共投資および設備投資は6ヵ月加重移動平均値による判断、民間・非居住用建築着工および鉱工業生産指数は12月データ。

〈天気図（水準）の意味〉

晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨

良
い
悪
い

## 2. 県内経済動向の概要

### (1) 前年同月比

(単位：%)

	項 目	前 年 同 月 比					
		25年8月	9 月	10 月	11 月	12 月	26年1月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	1.6	2.5	2.8	1.6	1.5	1.7
	乗用車新車登録台数	△ 4.4	13.9	12.4	12.3	25.7	26.8
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	17.0	92.9	△ 12.3	47.3	△ 22.2	341.2
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	94.0	△ 46.4	△ 22.0	38.0	187.2	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	56.8	12.1	△ 15.1	8.0	45.5	18.7
生産活動	鉱工業生産指数（総合） <sup>注1</sup>	△ 4.1	4.8	4.4	5.9	10.5	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） <sup>注1</sup>	0.23	0.22	0.21	0.17	0.14	0.11
	雇用保険受給者実人員	△ 1.3	1.8	△ 1.7	△ 6.5	△ 3.9	△ 11.0

注1 原指数

### (2) 前月比

(単位：%)

	項 目	前 月 比					
		25年8月	9 月	10 月	11 月	12 月	26年1月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	2.3	△ 9.0	6.0	1.0	27.5	△ 19.1
	乗用車新車登録台数	△ 17.6	34.0	△ 13.8	6.9	△ 11.7	26.4
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	△ 28.3	45.0	△ 54.2	14.5	△ 38.5	217.6
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	△ 45.1	△ 13.0	42.2	△ 9.0	108.5	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	△ 37.0	△ 6.8	△ 1.5	15.3	5.6	△ 29.2
生産活動	鉱工業生産指数（総合） <sup>注2</sup>	△ 1.1	6.0	0.6	2.7	2.5	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） <sup>注2</sup>	0.03	△ 0.02	0.04	0.01	0.02	0.01
	雇用保険受給者実人員	△ 5.7	△ 5.7	△ 3.0	△ 10.1	△ 1.3	△ 1.4

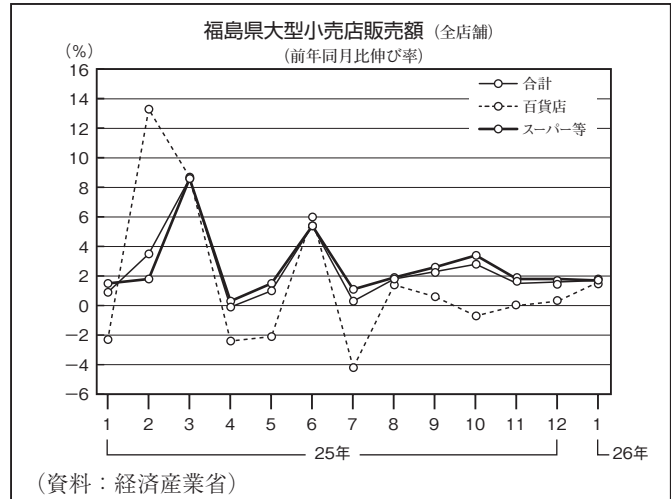
注2 季節調整値

### 3. 県内経済動向

#### 消費動向

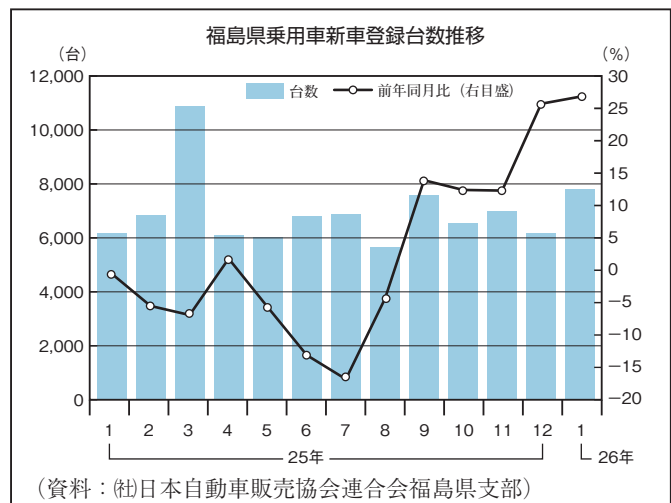
##### 大型小売店：9ヵ月連続で前年比増

1月の県内大型小売店の販売額（全店舗ベース）は、合計で205億87百万円（前年同月比+1.7%）と9ヵ月連続で前年を上回った。業態別で見ると、百貨店は、衣料品などが前年を上回ったことから、合計では同+1.6%となった。また、スーパーは、飲食料品などが前年を上回ったため、合計では同+1.7%となった。



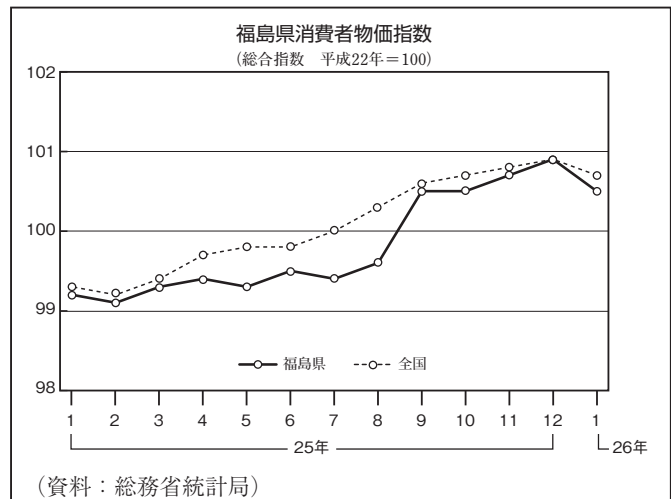
##### 乗用車販売：5ヵ月連続で前年比増

1月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で7,803台（前年同月比+26.8%）となり、5ヵ月連続で前年を上回った。車種別で見ると、普通車は2,399台（同+43.2%）、小型車は2,269台（同+7.4%）とともに5ヵ月連続、軽乗用車が3,135台（同+32.6%）と6ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。



##### 消費者物価指数：前月比で下降

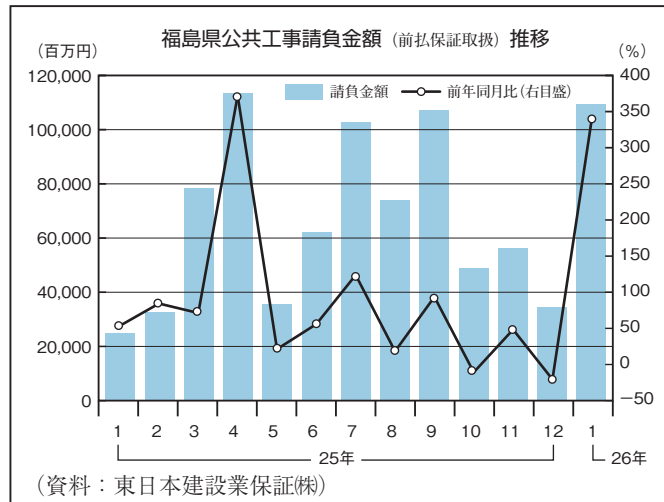
1月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成22年=100）で見ると、100.5と前月比で△0.4%、前年同月比では+1.3%となった。費目別にみると、「被服及び履物」の96.4（前月比△6.0%）など5費目が前月比で下降したが、「光熱・水道」の114.0（同+0.1%）が前月比で上昇した。



公共投資

公共工事：請負額は2ヵ月ぶりで前年比増

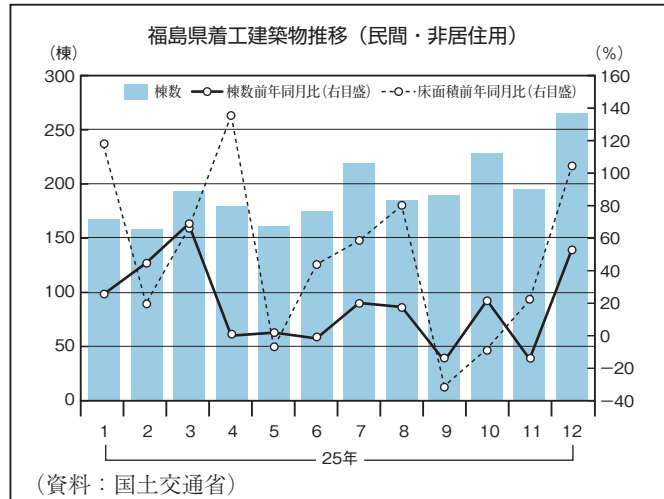
1月の公共工事前払保証取扱は、件数が562件（前年同月比+35.7%）と2ヵ月連続、請負金額は1,094億78百万円（同+341.2%）、保証金額は463億74百万円（同+310.9%）と2ヵ月ぶりでそれぞれ前年を上回った。



設備投資

設備投資：工事費予定額が2ヵ月連続で前年比増

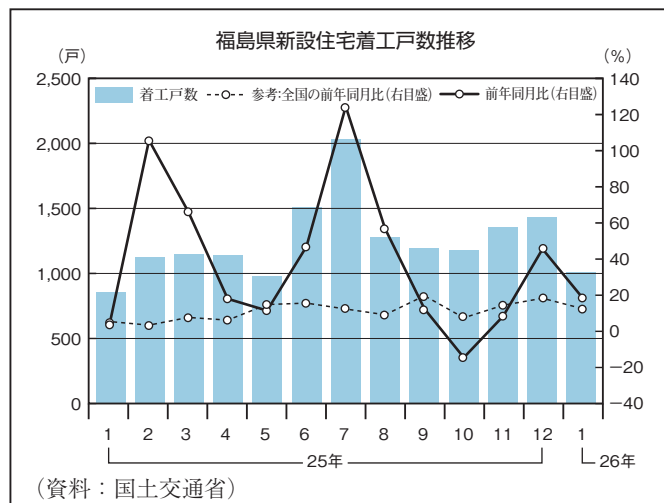
12月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が265棟（前年同月比+54.1%）と2ヵ月ぶり、工事費予定額が279億44百万円（同+187.2%）、床面積が114,984㎡（同+106.1%）と2ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。



住宅投資

住宅建設：3ヵ月連続で前年比増

1月の県内新設住宅着工戸数は、1,014戸（前年同月比+18.7%）と3ヵ月連続で前年を上回った。主な利用関係別にみると、「持家」が605戸（同+36.6%）と8ヵ月連続、「貸家」は358戸（同+0.3%）と2ヵ月連続でそれぞれ前年を上回ったが、「分譲」は49戸（同△9.3%）と3ヵ月ぶりで前年を下回った。

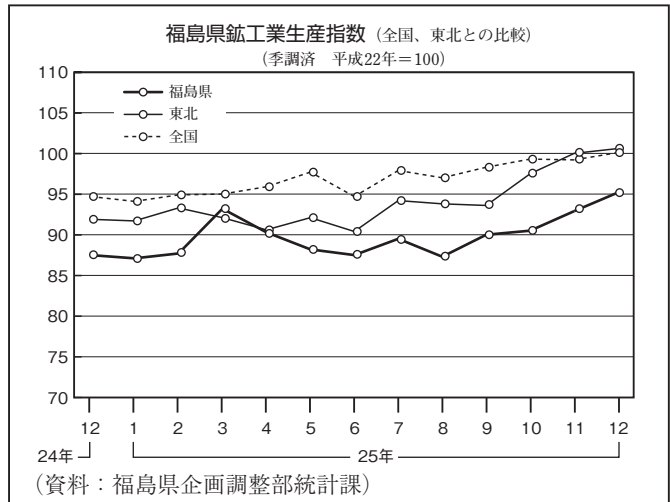


生産活動

鉱工業生産指数：4ヵ月連続で前年比増

12月の鉱工業生産指数は、95.2（季節調整値）で前月比+2.5%と4ヵ月連続で前月を上回るとともに、原指数が96.0で前年同月比+10.5%と4ヵ月連続で前年を上回った。業種別の季節調整値をみると、「鉱業」（前月比+34.1%）など14業種で上昇し、「電気機械工業」（同△11.6%）など5業種で下降した。

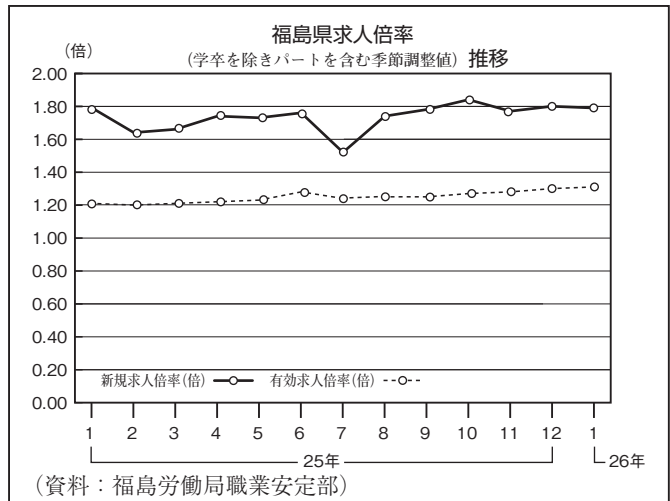
※福島県では、調査対象企業のうち、震災の影響により調査できない約3%の企業の生産額は0として処理している。



雇用動向

雇用動向：有効求人倍率は46ヵ月連続前年比増

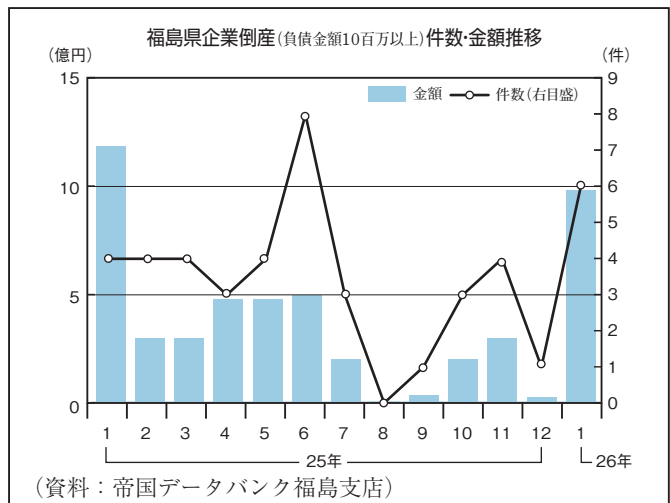
1月の新規求人倍率は、季節調整値が1.79倍（前月比△0.01ポイント）、原数値が1.67倍（前年同月比+0.02ポイント）となった。また、1月の有効求人倍率は、季節調整値が1.31倍（前月比+0.01ポイント）、原数値が1.34倍（前年同月比+0.11ポイント）と46ヵ月連続で前年を上回った。一方、1月の雇用保険受給者実人員は7,052人（前年同月比△11.0%）と4ヵ月連続で前年を下回った。



企業倒産

企業倒産：前年比で件数は増加、負債額は減少

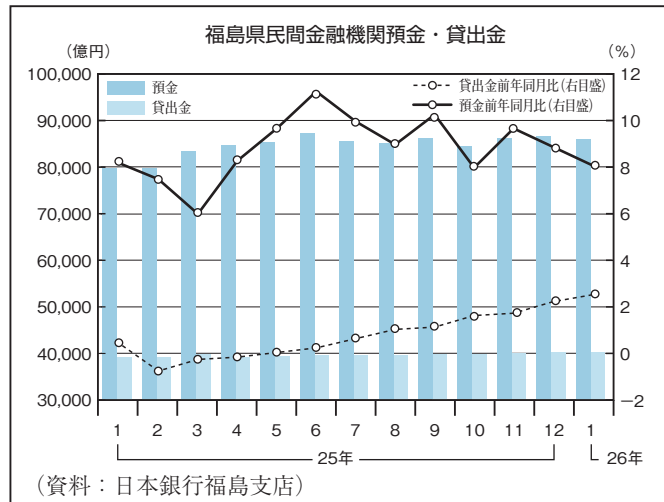
1月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、件数が6件（前年同月比+50.0%）、負債総額が9億57百万円（同△20.1%）となり、件数は前年を上回ったものの、負債総額は前年を下回った。業種別では、小売業とサービス業が各2件、建設業と製造業が各1件となった。



金融動向

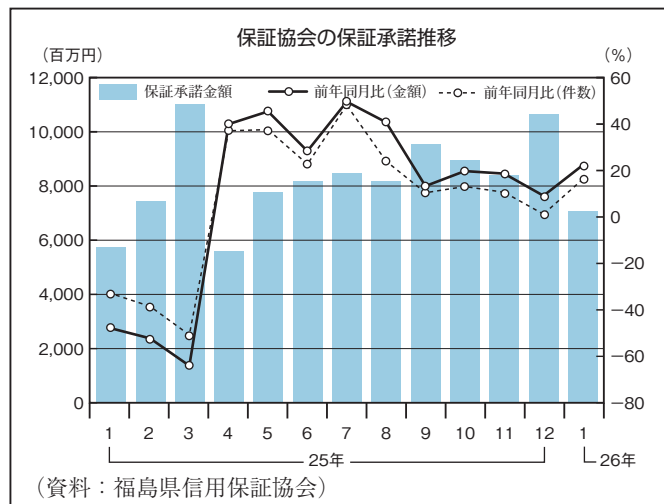
資金需給：預金、貸出金とも前年比増

県内金融機関（全国銀行、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の1月末の預金残高は、8兆6,290億円（前年同月比+8.1%）と83ヵ月連続、貸出金残高は、4兆179億円（同+2.5%）と8ヵ月連続で前年を上回った。



保証協会：保証承諾は件数、金額とも前年比増

1月の保証承諾は、件数が670件（前年同月比+16.5%）、保証金額が70億50百万円（同+22.6%）となった。また、1月末日現在の保証債務残高は、件数48,500件（同△2.0%）、金額4,423億73百万円（同△7.1%）となった。一方、1月中の代位弁済は、件数が29件（同+70.6%）、金額が3億52百万円（同+148.1%）となった。



4. 業種別動向

消費動向

**家電量販店** 1月の家電量販店の売上高は、消費増税前の駆け込み需要もあり、エアコンや冷蔵庫、洗濯機、パソコンなどが前年を上回ったことから、合計では前年を10%ほど上回った。

**ホームセンター** 1月のホームセンターの売上高は、エクステリアなどが前年を上回ったものの、家電製品やレジャー用品などが前年を下回ったことから、合計では前年をわずかに下回った。

**旅行** 12月の旅行取扱額は、海外旅行が団体向けを中心に前年を下回ったことに加え、国内旅行も前年を下回ったため、合計では前年実績を10%以上下回った。

**高速道路** 1月の県内自動車道出入台数は、合計で4,545,411台（前年同月比+4.1%）と10ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,480,907台（同+3.9%）と10ヵ月連続、常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は1,108,556台（同+10.7%）と9ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。一方、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は371,895台（同△4.6%）と2ヵ月ぶり、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は584,053台（同△0.9%）と2ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。

**福島空港** 1月の福島空港国内定期路線の利用状況は、15,727人（前年同月比+5.9%）と前年を上回った。路線別にみると、札幌便は5,872人（同△5.8%）、大阪便は9,855人（同+14.3%）となった。（国際定期路線は全便運休）

生産活動

**化学** 1月の食品包装フィルム用合成樹脂は、中国などの海外需要が振るわないものの、国内需要が堅調であることから、前年並みの生産水準を確保している。一方、高機能樹脂は、国内の自動車向けの受注が堅調なことから、前年を上回る生産となっている。

**鉄鋼・金属** 1月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材が東南アジアや米国の需要が回復してきたことなどから、前年を30%ほど上回る水準となった。また、半導体向け電子材は、新興国の製品との競合が続いているものの、前年を20%以上上回る生産を確保した。建機用鋳造品は、中国やオーストラリアを中心に海外からの受注が減少したことから、合計で前年を50%以上下回る生産となった。陸船用バルブは、需要の低迷と中国などの低価格品との競合が続いており、前年を20%ほど下回る生産となった。

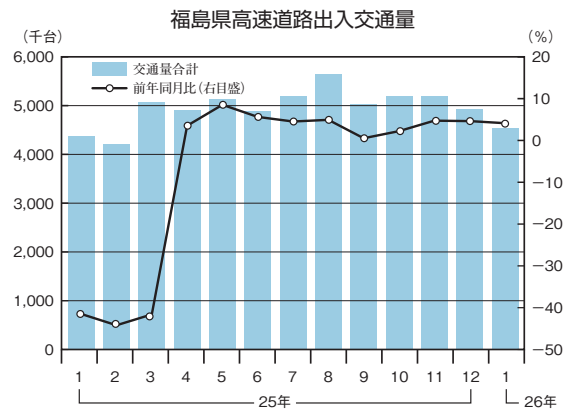
**輸送用機械** 1月の鋳造品は、トラック向けがタイの需要に不透明感が出始めていることなどから、合計では前年を5%程度下回る生産となった。一方、オイルシールは、中国および東南アジアの需要が上向いてきたことや円安効果などにより、輸出が増加したことなどから、前年を5%ほど上回る生産となった。

**電気機械** 1月の電気機械は、配電盤が前年を下回ったものの、変圧器や誘導炉が前年を上回ったため、合計でも前年を5%ほど上回る生産となった。

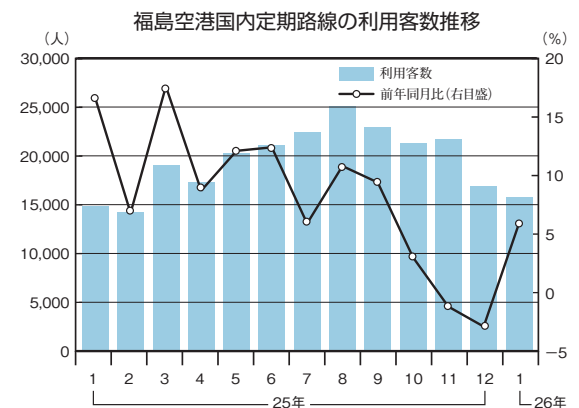
**情報通信機械** 1月の情報通信機械は、マイクロ波通信機器などの無線通信機器でインドを中心とした海外からの受注が減少しているものの、国内向けモバイル基地局の生産が堅調だったことなどから、合計では前年を20%以上上回る生産となった。

**電子部品・デバイス** 1月のLSI（大規模集積回路）の生産は、半導体の需要に不透明感が続いており、前年を20%以上下回った。

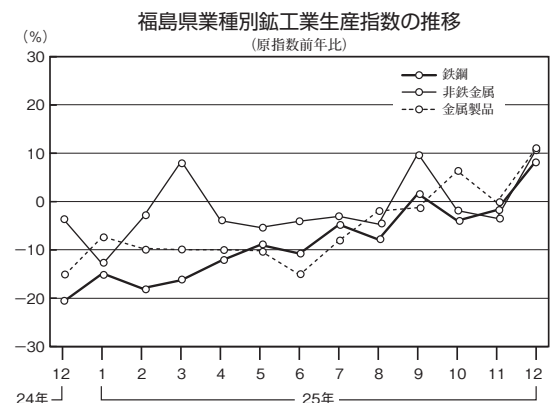
**精密機械** 1月の医療用内視鏡は、欧米向け高付加



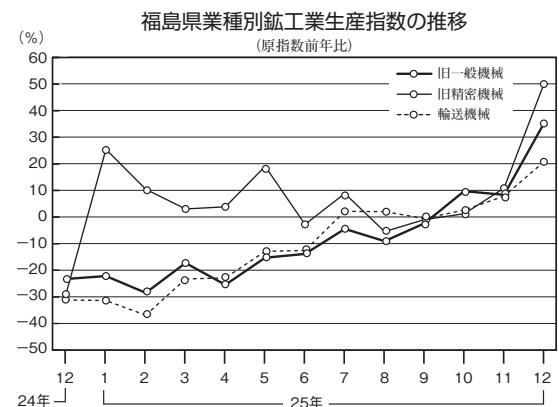
(資料：東日本高速道路㈱東北支社)



(資料：福島県商工労働部空港交流課)



(資料：福島県企画調整部統計課)



(資料：福島県企画調整部統計課)

価値製品および国内向け新製品の生産が堅調なことから、合計でも前年並みの生産水準を確保した。また、デジタル一眼レフカメラ用レンズは、新製品の増産や国内およびアメリカの需要が上向いてきたことなどから、ほぼ前年と同水準の生産となった。

**紙・紙加工品** 1月の製紙は、円安を背景とした輸出の増加により、感熱紙などの生産が堅調となり、合計では前年を15%程度上回る生産となった。

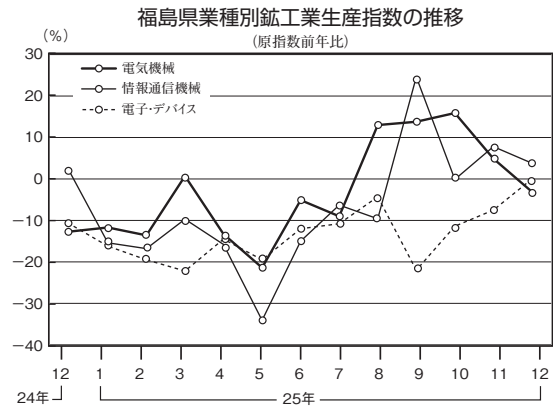
**窯業・土石** 1月の生コンクリート出荷量は、全体で135,525m<sup>3</sup>（前年同月比+28.4%）と30ヵ月連続で前年を上回った。地区別にみると、会津（同△2.1%）が前年を下回ったものの、相双（同+82.1%）など5地区が前年を上回ったことから、合計でも前年を上回った。

**清酒** 1月の清酒移出数量は、956kl（前年同月比+17.2%）と4ヵ月ぶり以前年を上回った。酒類別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が412kl（同+6.6%）と3ヵ月ぶり、一般酒（特定名称酒以外の酒）が544kl（同+26.7%）と5ヵ月ぶりでそれぞれ前年を上回った。

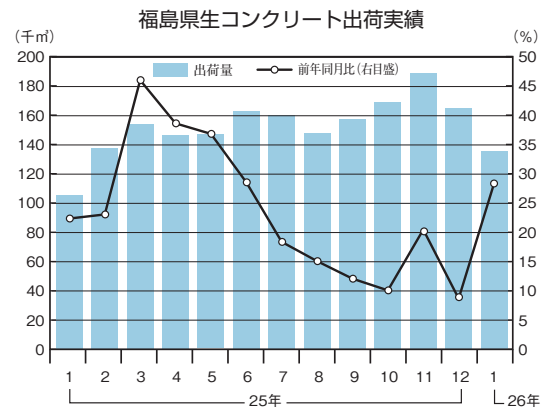
**化合繊維物** 1月の化合繊維物は、単価の高い製品にシフトしているものの、出荷数量が前年比で40%近く減少したことから、売上高は前年を25%ほど下回った。

**ニット** 1月のニットは、春夏物の生産が本格化しており、百貨店などの既取引先から安定した受注量を確認しており、ほぼ前年並みの生産水準となった。

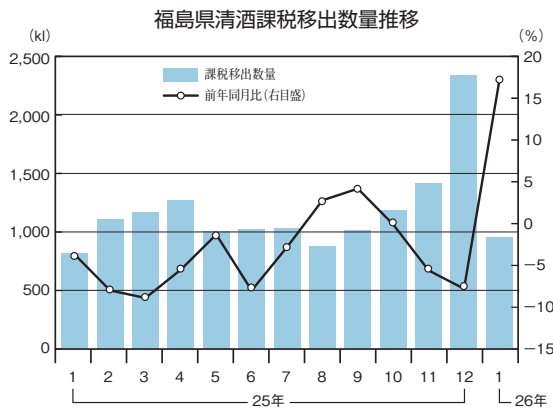
**大口電力** 1月の大口電力販売量は、460百万kw/h（前年同月比+8.4%）と4ヵ月連続で前年を上回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で98百万kw/h（前年同月比+27.7%）、「電気機械」で72百万kw/h（同△4.8%）、「輸送用機械」で55百万kw/h（同+10.5%）、「化学」で44百万kw/h（同+8.0%）、「一般機械」で25百万kw/h（同+6.4%）、「紙・パルプ」で15百万kw/h（同+7.5%）となっている。



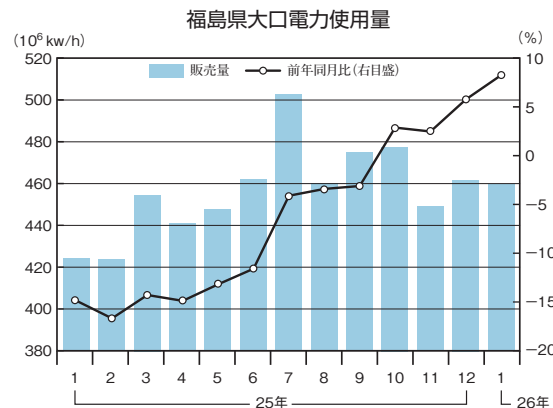
(資料：福島県企画調整部統計課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)



(資料：福島県酒造組合)



(資料：東北電力福島支店)